〈資料紹介〉

『豊橋留守歩兵第十八連隊日誌』

三世　善徳

はじめに

本稿で紹介する『豊橋留守歩兵第十八連隊日誌』（以下、『日誌』と記す）は、豊橋市美術博物館が平成十二年度古書店より購入した資料である。内容は『日誌』の筆者である澤田重三郎が、大正十年（一九二一）十二月十日、豊橋の歩兵第十八連隊へ現役兵として入営以降、翌年四月一日までの約四か月（百十三日）の日記である。

『日誌』は、縦一四九㎜×横二〇八㎜のほぼA五判の大きさで、二十二行の罫線が印刷された用紙三十一枚の両面に縦書きで記載され（四月一日以降に白紙の頁が十八枚有る）、表裏表紙は厚紙が使用されている。文字は墨書で始められたが、十二月二十一日から青色のペン字に変わっている（同二十五日～二十七日迄の二ページは墨書）。

『日誌』の筆者の大澤重三郎の出自・経歴については、表紙裏に古書店で貼付したと思われる貼紙があり、左記の書き込みがある。

（表紙裏貼紙）「八名郡山吉田村上吉田、沢田重三郎が、大正十年十二月第十八連隊豊橋留守隊に入営し、十一年四月北満派遣の第十八連隊本隊へ渡満する迄の日記なり」

この書き込みと、『日誌』の内容により澤田重三郎は、八名郡山吉田村大字上吉田（現、新城市上吉田）出身であり、現役兵として歩兵第十八連隊に入隊し、翌年四月本隊の駐箚する満州へ渡った事がわかる。

『日誌』の成立時期は不明であるが、陸軍では兵卒に日記を書くことを奨励しており、特に初年兵は日記を書くことが教練等の復習となり、軍側では日記を提出させ検閲することで、兵卒の規律、精神、思想などをチェックすることができる利点があった。こうした点も含めて『日誌』を見ると、当初は墨文字であったが早い段階（十二月二十一日）で青いペン文字に変わっている点や、文字の訂正、熟語を返り点で読ませる所がそのまま残り、項目の後に長い空白が散見され、軍を批判的に記載した項目が全く無い事などから、提出を前提に書いた日記を除隊後、清書し纏めようとした下書きと考えられる。

『日誌』は、十二月初期の頃や、元日、行軍等は一日の記載内容も多く一頁を越えるが、二月十九日、日曜や四月一日最終日は記載が無く、二月二十六日、日曜も休と一文字のみ記載してある。また、三月十五日と十六日は前後入れ替わっている。

大正二年制定の「軍隊教育令」[1]によれば、毎年十二月一日より翌年十一月三十日までを教育年度とし、年度を数期に区分し実施すべき課目を「歩兵教育順次表」に示している。同表では、十二月上旬より三月下旬までを第一期、六月下旬までを第二期、九月上旬までを第三期、十一月下旬までを第四期と区分している。『日誌』は、初年兵（二等卒）の第一期教育期間にあたり、「歩兵教育順次表」には各個射撃・体操・銃剣術・射撃（距離測量を含む）・中隊教練・陣中勤務の課目が挙げられている。

第一期終了時には連隊長の検閲があり、成績優秀者は上等兵進級や喇叭手任官のための第二期以降特別教育を行ったという。[2]

歩兵第十八連隊の動向（満州駐箚）

日本は、日露戦争後ポーツマス条約で獲得した満州の権益（旅順－長春間の南満州鉄道と付属地、炭鉱、旅順・大連を含む遼東半島南部の租借地及び鉄道沿線等）警備のため一個師団と独立守備隊六個大隊を配置していた。師団は二年交代（交代時期四月）でありこの警備体制は満洲事変まで継続する。

澤田が入隊した大正十年は、歩兵第十八連隊の所属する第十五師団（師団司令部豊橋）に満州駐箚の命が下った年である。

師団司令部をはじめ、隷下の四個歩兵連隊（豊橋第十八、静岡第三十

表１　第15師団満州駐箚における部隊配置表

駐箚(守備)地	部隊		適用
哈爾濱（ハルビン）	北満州派遣隊	歩兵第17旅団司令部	東支東線に左の如く配兵す ポグラニチナヤ１中隊機関銃２ 横道河子 1中隊 一 面 坡 大隊本部、1中隊機関銃2
		歩兵第18連隊	
寛城子	南満州駐箚部隊	歩兵第34連隊第2大隊	
公主嶺		騎兵第19連隊	
鉄　嶺		歩兵第29旅団司令部	
		歩兵第34連隊(第2大隊欠)	
奉　天		歩兵第67連隊第3大隊	
遼　陽		師団司令部	
		歩兵第67連隊(第3大隊欠)	
		工兵第15大隊	
海　城		野砲兵第21連隊(第3大隊欠)	
旅　順		歩兵第60連隊(第1大隊欠)	1中隊を柳樹屯に派兵し 該地及大連を守備

※北支派遣歩兵大隊は歩兵第60連隊第1大隊とす

四、豊橋第六十、浜松第六十七）と騎兵第十九連隊、野砲兵第二十一連隊、工兵第十五大隊（以上、豊橋）の各部隊は、同年三月下旬から四月にかけて鉄道で大阪・神戸へ向かい、輸送船で大連へ、そして満州各地の守備に就いた。

豊橋発行の地方紙『新朝報』[3]の三月二十五日紙面には、歩兵第十八連隊の第二大隊が豊橋屯営から駅まで行進し、尚武会・在郷軍人・小学生等市民の声援を受け前日二十四日に出発、本日は午後八時十分に連隊本部・第二・第三大隊が出発予定であると伝えている。旧[4]陸軍の資料によれば歩兵第十八連隊は、第二大隊と第二・第十二中隊・機関銃隊が三月二十四日、連隊本部及び第一・第三大隊が翌二十五日豊橋駅を出発し、前者は四月三日、後者は四日に大連着となっている。

師団の各部隊が駐屯地に到着したのは四月二十四日であった。[5]駐屯地は表[6]1の通りで、遼東半島南端の旅順から海城・遼陽（師団司令部）・奉天・鉄嶺等日露戦争時の戦場跡を北上し、歩兵第十八連隊は最北のハルビンに連隊本部を置き東支東線（ハルビンからウラジオストックに至る線）の警備担当となった。満州駐箚師団は南北二つの部隊に分けられており、ハルピン駐屯の歩兵第十八連隊と歩兵第十七旅団司令部は北満州派遣隊、それ以南は南満州駐箚部隊となっていた。

大正七年のシベリヤ出兵により、日本軍は一時的にロシア領の沿海・アムール・ザバイカル地域及び北満州を占領した。このため満州駐箚師団の守備範囲も長春以南の南満州からハルビンを中心とした東清鉄道沿線の北満州に広がった。しかし、第一次世界大戦の終結等により日本軍は順次撤兵し大正十一年には完全撤退したが、歩兵第十八連隊の駐箚当時はハルビンからポグラニチナヤ（沿海州方面）間の鉄道沿線守備は維持していたためである。情勢の安定しない北満州の地に、創立が古く戦闘経験を有する歩兵第十八連隊が配置されたのであろう。

歩兵第十八連隊の将兵のうち満州に派遣された人員は、前記輸送記録によれば千五百人強である。明治四十年（一九〇七）の歩兵一連隊平時編成表の定員一九三八人より少ないが、これは大正八年制定の「満[7]州駐箚師団交代要領及同細則」の規定により、豊橋の兵営に二個中隊（三百十三人）の歩兵第十八連隊留守隊を残置したためである。尤も大正三年に始まった第一次世界大戦や軍備縮少・整理・充実により、歩兵連隊には新たに機関銃隊の編成が順次始まっており、歩兵第十八連隊は大正七年新設されているので、連隊の定員数は増減があったと思われる。

澤田等大正十年十二月入営兵は第一期教育期間終了後の翌十一年四月本隊に合流するため満州へ渡っている。しかし、前出の「満州駐箚師団交代要領及同細則」には、駐箚師団の二・三年兵は毎年十一月に帰還・除隊させ、十二月初年兵を徴兵後速やかに満州駐箚隊に送るよう規定している。帰還除隊兵・初年兵渡満に関する記事を「新朝報」の大正十年の紙面で見ると、十月五日「第十五師団に入営の初年兵は直に渡満す

る」（初年兵は入営後約一週間で渡満する）、十月二十二日「第十五師団新兵渡満期明年三月下旬」（師団各隊初年兵の渡満時期が明年三月下旬に変更）、十一月十五日「第十五師団除隊兵内地帰還」（歩兵第十八連隊以外の各部隊が、同月十七日～十九日に駐屯地に帰還）、十一月十七日「初年兵教育係昨日無事帰着」（歩兵第十八連隊初年兵教育のため同連隊将校下士卒百八名が前日十六日豊橋帰還）、十一月十九日「帰還隊通過静岡・浜松連隊」（静岡・浜松歩兵連隊の除隊兵が豊橋駅停車の後駐屯地へ向かう）、十二月十四日「初年兵渡満期」（各部隊初年兵は十二月十八日～二十日に駐屯地出発、但し、歩兵第十八連隊のみ未記載）。以上みてゆくと、歩兵第十八連隊のみ除隊兵帰還、初年兵渡満の期日がそれぞれ延期されたようである。

帰還除隊兵の延期については、十一月五日付けで、大正八年徴集兵（大正八年十二月入営兵、同十年十一月除隊）の在営延期の記[8]録が残っており、その理由は「時局の関係上」となっている。歩兵第十八連隊を北満州派遣隊として政情不安定なハルピン等満州北部に配置したことにより、軍隊教育を全く受けていない初年兵を直ちに配備せず、大正八年徴集兵の在営期間を延長し、同十年入営初年兵の第一期教育（四か月）が終了後の交代を計画した。同様の措置は前任の第十六師団でも行なわれている。

大正十一年三月以降の動向については、やはり旧陸軍の記[9]録で初年兵の満州駐留、満期除隊兵の豊橋帰還の内容が判明する。渡満初年兵等九百九名（将校十二名・下士卒八百九十七名）は四月四日豊橋駅を出発、同五日宇品着、渡満後四月十五日にハルピンより各駐屯地へ向かい同二十一日配置完了している。一方、帰還満期除隊兵七百八名（将校五・下士卒七百三名）は、四月十五日、初年兵等と入れ替わるように長春を出発し、同二十日大連着、船舶輸送後四月二十六日大阪発、二十七日豊橋に到着している。明治末以降、歩兵連隊の兵役期間は法令上の三年から実質二年に短縮されていたが、大正八年徴集兵は、北満州駐箚という非常時のため在営期間を延期されたのである。

『日誌』の内容

『日誌』は日付・曜日・天候が一行で記され、術科・学科・行軍・野外演習・非常呼集等の軍隊教育に関するもの、入隊式・陸軍始・陸軍記念日等の記念日、所感・会報・当番・面会・外出等通達や営内生活、休日の行動等が頭出しされ、各項目の下に一行から数行の記載がある。

『日記』表紙及び入営初日の項に記載されているが、澤田は入営と同時に第十二中隊第六区隊第四班に編入されている。この年入営した初年兵は「新朝報」の十二月十一日紙面には八百名とあり。これら初年兵が満州より帰還した下士官・上等兵や留守隊一等卒と共に内務班と呼ばれる兵営内の訓練・生活単位に配属され、初年兵訓練を受けることとなる。

連隊本隊が満州駐箚しているこの時期、内務班がどのような編成であったかは不明であるが、大正から昭和初期の平時には、内務班は二十名前後で一班とし、下士官（通常軍曹）が内務班長に任命され、兵卒の訓練指導の責任者となり、伍長・上等兵数名が補佐役となった。十二月十一日の項には、教官として吉田中尉、加藤軍曹、石黒・坂田・藤岡の三人の上等兵の名がみえ、同十三日の記載により、吉田中尉が区隊長、加藤軍曹が内務班長であり、石黒他の上等兵がその補佐役であろう。

戦時には内務班を中心に分隊が組織され戦闘の最小単位となり、分隊が数隊集まり小隊となり、中隊内に三～四個小隊が編成された。連隊は三個大隊（一個大隊に四中隊）、十二個中隊で編成されていた。

中隊は第一大隊から番号順に四中隊が割振られているので、澤田の第十二中隊は第三大隊ということになる。しかし、一月十七日の項には、「直属上官第二中隊長角田大尉殿ノ尊顔ヲ拝スルヲ得、挨拶訓示アリ」、二月二日にも「第二中隊長角田一郎殿ノ訓示アリ」と記されており、留守部隊の編成は二個中隊であるので、第十二中隊は連隊本隊での配属先、第二中隊は留守部隊における所属であると考えられる。

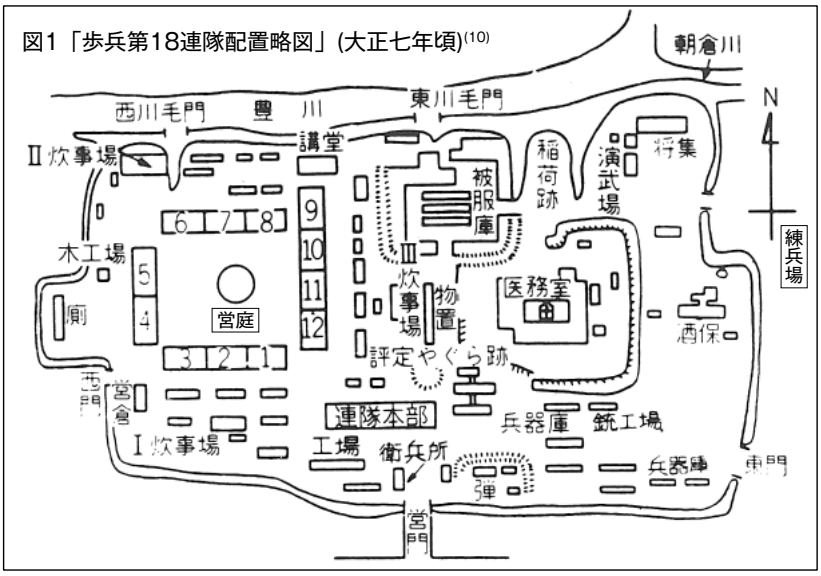

図1「歩兵第18連隊配置略図」(大正七年頃)[10]

初年兵教育

初年兵教育は「軍隊教育令」の第一期教育の課目である各個教練、体操以下を繰り返し実施しており、その内容は「軍隊内務書」「歩兵操典」「射撃操典」等によって行われた。課目を屋外にて実施するものを術科、室内で行う勅語、精神教育、陸軍礼式等書籍による教育を学科と称した。

教育は入営二日目から行われており、徒手として軍人基本の姿勢である不動の姿勢、行進（駈足・速歩等）、執銃［しつじゅう］（立銃における不動の姿勢）、担銃、着剣及脱剣、弾薬の装填及抽出、射撃（立銃・膝射・伏射）、突撃、散兵、中隊教練が順次行われた。吉田中尉からは、術科のみならず、学科において兵役の義務、軍隊生活、勅諭前文・同五カ条、連隊の歴史、武勇・軍紀・誠心・攻撃精神等、軍隊生活の心得、軍人精神の基本等を教授されている。また射撃については早くも十二月二十日に三八式歩兵銃が貸与され、一月五日には牛川射撃場を見学し、八丁練兵場内にある近距離射撃場のみならず、遠距離射撃の行える牛川射撃場での教練が数多く行われている。図1は大正七年頃の兵営内略図で中央下部に連隊正門である営門がありその先に連隊本部、敷地左手の口の字に配置された四棟の建物が兵営で、1～12の数字は中隊の位置を表す。兵舎に囲まれた丸印のある敷地が営庭である。敷地の右中央に医務室、その右手に酒保、奥に将校集会所、中央上部の被服庫は吉田城址本丸に当たる。酒保の右外には八丁練兵場が配置され、その東側部分に近距離射撃場があった。

営内生活

営内生活を行う上での指導は上等兵等が行なっており、入営三日目には坂田上等兵引率による営舎内案内、同十八日には酒保見学、同二十三日夕方には教官及び上等兵に引率されて市内有楽館へ映画鑑賞、大晦日には坂田上等兵に引率され豊橋市内見物に出かけ、東田の陸軍墓地で戦病死者の参拝を行っている。夜は歌謡・詩吟などのある無礼講が行われた。一月十七日には午後、市内東雲座に映画鑑賞に行き、同二十日には衛生講話があり、渡満に備えてか、凍傷・感冒の予防法講話があった。また、澤田には第一期教育期間中三回の面会があり、十二月二十四日土曜日には郷里の知人と思われる肥田氏、一月三日には郷里山吉田村の在郷軍人・青年代表八名と面会し、親しき人々との再会を喜んでいる。三月十四日五時過ぎには伊勢参宮途中の父親が面会に来ている。

教育期間中一度だけであるが、一月二十日には「棒給壱円弐拾銭受ク」と記載がある。当時の兵卒の給料は毎月十日・二十日・月末の三回払いであり、受け取った一円二十銭は月額三円六十銭の三分の一に当たる。

行事・記念日等

恒例の行事・記念日としては、入隊三日目十二月十二日の入隊式、一月一日の四方拝、同二日元始祭、同八日陸軍始、二月十一日紀元節、三月十日陸軍記念日などがある。入隊式では軍人勅諭の奉読、正月の四方拝、元始祭は共に皇室の行事であるが、皇居遥拝が行われ、二日には無

図2（歩ノ十八）勅諭下賜四十年祭ニ於ケル兵隊ノ余興（変装）絵葉書

礼講の酒宴が開かれている。陸軍始では、観兵式・分列式が練兵場にて行われている。連隊最大の行事である軍旗祭は八月十五日であるため行われていないが、大正十一年一月四日は、明治十四年（一八八二）軍人勅諭が下賜されて四十周年にあたり、兵舎に造作物を飾り（第六区隊では第四班は桜に花を咲かす花咲爺、五班は砲台を造った）、酒保前に留守隊一同整列し留守隊長の訓示、勅諭奉読があった。午後からは営庭にて大運動会が開催され、澤田は午後一時から二時まで、面会取次に従事している。「実ニ此ノ日ハ待チ遠シカツタ」と記している。（図2）

このほか十二月十四日、満州の本隊が馬賊と交戦し兵卒戦死が報告されているが、同二十八日に遺骨が兵営に戻り告別式が行われている。

野外演習・行軍

軍隊教育では兵営内だけでなく、営外へ出て高師原・天白原演習場での演習の他、行軍と呼ばれた日帰り又は宿泊を伴う演習が行われた。

最初は十二月二十九日の豊川稲荷への行軍で、午前八時半兵営を出発し十時半着、諸所見学し十二時発午後二時半帰営している。二度目は一月十四日で、教官・班長に引率され、豊川を渡って下地（現、豊橋市）、正岡（現、豊川市）を経て再度豊川稲荷へ参詣、休憩の後、国府（現、豊川市）にて昼食、十二時過ぎ頃出発し小坂井（現、豊川市）を経て帰営した。行きには班長より行軍・軍規等の質問があり、豊川稲荷及び国府迄の道中では喇叭に合わせた駈足行軍を行った。豊川稲荷あたりより雪模様であったが、駈足により寒さを忘れ、帰路に行軍中軍歌を歌い、「実ニ軍歌ハ行軍力ノ強大ナラシムル基礎デアル」と所感を記している。距離六里（約二十四㎞）、六時間の行程であった。三度目は二月二十一日～二十四日迄、三泊四日の野外演習を行いながらの行軍であった。第一期教育も終盤に近付き留守隊の二中隊揃って行う大規模なものであった。

初日は下地、蒲郡を経て形原村で基本体操・銃の手入れを行い、民家に宿泊、二日目は山地を超え野外演習を実施、空包による戦闘射撃等を行い、終了後、横須賀（現、西尾市幡豆町小牧）に向かい民家に宿泊した。三日目は、軍歌を歌いつつ六ッ美村（現、岡崎市）を目指し、到着後中隊小哨・歩哨等の訓練を行い同地に宿泊した。最終二十四日は午前二時起床・四時出発で夜道を東海道に進み、山中村（現、岡崎市舞木町）を経て小坂井にて昼食、午後三時帰営した。区隊長より行軍途中の落伍者（六ッ美村より一名汽車にて帰営）に付き批評があった。

野外演習はより頻繁に行われている。最初は一月二十四日の高師原演習場の石田高地で行われた留守隊二・三年兵の演習見学で、「初年兵ハ（略）演習ノ前後ヲ走リ（略）地物利用ノ有益ナルヲ自覚ス」と記している。その後一月二十七日には演習を行いつつ南下し小松原村（現、豊橋市小松原町）の古刹東観音寺を参拝し、東へ向かい静岡県白須賀（現、湖西市白須賀町）にて昼食、二川（現、豊橋市二川町）休憩後帰営している。この後二月七日高師原にて警戒行軍・散兵教練等の演習を行い、二月十五日・三月二日・同十七日にも高師原で演習、同四日には高師原で行われた第三師団の演習を見学している。その後三月十日の陸軍記念日には、牟呂吉田村（現、豊橋市）にて第四・第六区隊各六十名による

空包発射を伴う対抗演習を実施した。小学生も参加し、昼休憩時小学校より汁粉の提供があった。午後一時には帰営し、祝いの馳走があった。

非常呼集

訓練期間中、非常呼集が一月十八日、同二十六日、三月十二日にあり、初回は集合後、兵営東方東田町の陸軍墓地に行き、乃木大将・楠木正成祭祠地を参拝し駈足・道足で帰営している。二回目は午前六時に非常呼称があり練兵場を約二十分間駈足して終了。三度目は通常休日である日曜の朝五時喇叭の音で起床し、岩屋観音（現、豊橋市大岩町）へ行進、到着休憩後、連隊全員による戦闘演習（白兵戦等）を高師原にて行い、留守隊長よりの渡満兵の責務、演習についての講話を聞き、午前八時過ぎには帰営している。各小隊に付き二～三名の落伍者があり、区隊長より演習及び行軍に対する注意訓示を受け、「実ニ数丁ノ距離ノ強行軍ニテ弱ル様ナ事デハ、戦時ニ於テハ戦友ノ意思ヲ薄弱シ迷惑ヲスルノデアルカラモット〳〵我等ハ体力行軍力ヲ教練セナケレバナラヌ、又々行軍軍紀ヲ各人守ル必要アリト自覚ス」と所感を記している。

第一期検閲

三月二十一日～二十三日に第一期の検閲が留守隊長（満州駐箚の連隊長代理）により行われた。初日は営内において速歩・駈足・行進・分隊教練・捧銃等、二日目は高師原演習場において二・三・五・六班の散兵教練、三時半より歩哨等、最終日も高師原演習場において、一班・四班の散兵教練の査閲が行われた。

査閲終了をもって教練は終了し、以後、兵器・被服の手入れ、特別射撃優秀者等の表彰、豊川稲荷への渡満兵祈祷、帰郷、送付荷物収納、大掃除等を三月三十日まで行っており、落ち着いた日々を送っている。同日には石黒上等兵より餞別を貰い、翌三十一日には豊橋市内へ出て、大手通の豊明館で映画を見ている。帰営後石黒上等兵の慰労・餞別の茶話会を隊内で行っている。

帰郷

三月二十六日から二泊三日で帰郷を許可されている。朝六時十分に営門を出て、豊橋駅にて長篠行列車に乗り、十時新城着、徒歩にて親戚宅によりながら午後一時半山吉田村の家に帰宅した。翌日、村社・墓参り、親戚宅挨拶をし、最終日午後一時、途中まで見送りを受けて自転車で新城へ出、汽車にて五時豊橋着、約一時間市内見物後、六時二十分帰営している。軍隊生活を離れ故郷・家族等に触れたためか、二日目には「帰郷ハ吾々如キ者ハ軍隊ノ事等ハ一切忘レ故郷ノ感慨ニ沈ム」、最終日には「本日ハ軍隊生活ヲ飽キ出シタ」と所感を記している。通常初年兵第一期教育終了時の帰郷は無いので、満州派遣を前提とした特別の措置であったと思われる。

以上、『日記』から大正中期の初年兵の第一期教育四か月の兵営生活を見てきた。古参兵等からの理不尽な制裁が常態化していたと言われる兵営生活で、澤田は前向きな姿勢・意欲を綴っている。この第一期教育内容が通常期と同内容か、あるいは満州派遣を前提とした教育内容であったかは不明であるが、当時の軍隊生活の一面を良く伝えている。

（豊橋市美術博物館　会計年度任用職員）

【註記】

（1）大正二年一月「軍隊教育令」防衛省防衛研究所戦史センター（以下防衛研と略す）所蔵史料、（国立公文書館アジア歴史資料センターのデータベースより、データベースレファレンスコード C02031677900、以下コードと略す）

（2）『写真で見る日本陸軍兵営の生活』藤田昌雄著、平成二十三年刊

（3）「新朝報」、明治三十五（一九〇二）年九月に発刊された豊橋地方日刊紙。

豊橋市図書館所蔵。

（4）大正十年二月「満州駐箚師団竝北支那派遣歩兵大隊交代輸送ノ件報告」、大正十年三月「満州駐箚師団交代鉄道輸送ノ件報告」、大正十年三月「満州駐箚師団交代満州内鉄道輸送ノ件報告」、防衛研所蔵史料、（コード C03022560400、C03022559900、C03022559700）

（5）大正十年四月「満州駐箚師団交代完了ノ件報告」、防衛研所蔵史料（コード C03022533800）

（6）（5）及び大正九年十二月「満州駐箚師団部隊配置ニ関スル件通牒」を参考に作成。防衛研所蔵史料（コード C03022533200）

（7）大正八年十月「満州駐箚師団交代要領同細則制定の件」防衛研所蔵史料（コード C03022460100）

（8）大正十年十一月「在営延期ノ件」防衛研所蔵史料（コード C03010315200）

（9）大正十一年三月「歩兵第十八連隊人員整理ニ関スル件」他、防衛研所蔵史料（コード C03010339600）、大正十一年四月「歩兵第十八連隊初年兵派遣輸送ノ件報告」防衛研所蔵史料（コード C03010325900）

（10）豊橋市図書館蔵『歩兵第十八連隊史全』掲載図、帝国連隊史刊行会編輯、大正八年十一月三版発行（初版大正七年五月印刷発行）

【凡例】

一、字体は原則として常用漢字及び通用の文字を用い、新字体に改め、適宜、読点、並列点を挿入した。

二、誤字脱字などは可能な限り［　］内に補ったが、仮名文字はそのままとした。判読不能の文字は□で表記した。

三、文章の読みやすさ、検索の便のため月日は太字で表示した。

四、頁数短縮のため改行された文章を前行に詰めた。また、数行あるいは一頁の空白行も、すべて行を詰めた。

五、文中には文字に二重線を引き訂正した個所、漢文で使用する返り点を使用した二字熟語があるが、すべて訂正後の文字で記載した。

（表紙）

日　誌

豊橋留守歩兵第十八連隊
第六区隊第四班
澤田重三郎

大正十年　**十二月十日　土曜日**　**雨天**

入営所感　午前拾時八丁練兵場ニ集リ、流行病ニ感伝シタ者及流行地ヲ通リタ者ノ調ベガアリ、十二中隊ニ編入サレタ、時ハ天晴国家ノ干城タル軍人ノ一員トシテ大ニ自覚シ、層一層君ニ一身ヲ捧ゲ、国恩ノ万一ニモ報セント益々其ノ念ヲ深カラシメタ

精神及ビ身体ノ具合

軍隊ノ規律アル厳格ナルニ打テ木石同様デアツタ

十二月十一日　日曜日　**晴天**

学科　午前八時　教官吉田中尉殿、兵役ノ義務及ビ軍隊生活（術科、学科、内務）、兵備

術科　舎前ニテ敬礼―挙手敬礼（正面斜右左）、医務室ノ前庭ニテ準備運動・準備姿勢ヲ習ウ、教官＝加藤軍曹殿・石黒上等兵殿・坂田上等兵殿・藤岡上等兵殿

学科　日夕点呼後、石黒上等兵殿ヨリ 1、不寝番ノ心得＝火災、盗難、衛生 2、敬礼ニ付キ舎外及ビ舎内ニテ上級者ニ欠礼セザル事及ビ注意、以上ニ付キ教ヘラル、本日ハ愉快デアツタ

十二月十二日　月曜日　晴天

入隊式　洗面後、坂田上等兵殿ニ引率サレ営舎内ヲ教ヘラル
留守隊一同舎前整列（午前九時）、留守隊長吉根中佐殿ニ敬礼ス、留守隊長殿ガ勅諭及ビ大正ノ勅諭ヲ御奉読サル、又遠ク満州ノ地ニオラル、連隊長殿ヨリノ通文訓示ヲノベラレ、新入営者ニ対スル所感希望ヲ申サル、此ノ時ハ水ヲ打ツタ様ナ心地ト共ニ其ノ責務ノ大ナルヲ感ズ

術科　舎前ニテ敬礼（頭右左）、準備運動、終末運動、挙手敬礼、遊戯、会報、不寝番

十二月十三日　火曜日　晴天

学科　教官吉田中尉殿、勅諭ノ前文ニ付キ御講釈アリ、我国ノ他国ニ秀ズル所　一、中心　二、挙国一致

術科　午前　練兵場ニ於テ準備運動、不動ノ姿勢、挙手敬礼＝行進間ノ斜左右
午後　舎前ニテ駈足、基本体操、遊戯　吉田中尉殿ヨリ
1、体操ノ目的ニ付　身体ヲ強健ニシ筋骨柔軟ニテ動作敏俊
2、凍傷ノ予防

学科　師団長　陸軍中将　市川堅太郎閣下
旅団長　陸軍少将　福田栄太郎閣下
連隊長　歩兵大佐　佐久間五郎殿
三大隊長　歩兵少佐　太田順次殿
十二中隊長　歩兵大尉　権田寿三郎殿
教官区隊長　歩兵中尉　吉田四郎殿
班長　歩兵軍曹　加藤次吉殿

十二月十四日　水曜日　曇天

術科　準備、基本体操、廻向ケ右左向ケ

科外　舎前ニテ留守隊長殿ヨリ、満州守備隊ガ、チチハル約三里ノ所ニ於テ馬賊ト衝突シ戦ヲ交ヘ、藤川軍曹以下拾名、名誉ノ戦死ヲシタ、敵ハ参拾名及馬匹八頭ノ死体ヲ残シ退却シタ（時ハ十二月十日午前拾時頃デアル）トノ御話デアツタ、各ノ如キ状態デアルカラ、大ニ自覚シ彼等霊恨ノ忠勇ニ信倚シ、益々軍務ニ勉励シ、益々我第十八連隊ノ名誉ヲ輝カサネバナラン

術科　基本体操、不動ノ姿勢、廻向右左向、
敬礼＝行進中、停止斜右左

会報　皇太子殿下ガ今回摂政ヲトラセ給フニ付、伊勢神宮及京都桃山御陵参拝シ、明日豊橋駅通過ニ付、目迎目送スルトノ事

十二月十五日　木曜日　晴天

術科　舎裏ニテ目迎目送ヲ習フ、準備体操

術科　午後〇時　分豊橋駅ニテ摂政宮殿下ヲ目迎目送ヲナス
舎前ニテ基本体操、速歩行進、遊戯

十二月十六日　金曜日　晴天

術科　舎前ニテ基本体操、速歩行進

学科　吉田中尉殿ヨリ舎裏ニテ射撃ニ付キ、照門、照星、照準点（姿勢、沈着、引金、照準ノ正確、精神ノ集中）

術科　午後　基本体操、射撃ノ照準
医務室ニテ種痘ヲ受ク　速歩行進

十二月十七日　土曜日　雨天

学科　吉田中尉殿
意志＝要領ヲ得ル可、明瞭、簡単、活音、決心、理由、処置
誠心　一、自覚ノ精神　二、反省
軍人教育ハ二ケ年間、誠心ヲ以テ立派ナ軍人精神ヲ鍛ヘ錦ヲ飾リ帰郷スル
誠心
先帝御製　鬼神も泣するもは世の中の
人の心の誠なりけり
目に見えぬ神の心にかようこそ

人の心の誠なるらん

午前　医務室ニ於テ予防接種ヲ受ク（チブス、バラチブス）

菅原道真公　心だに誠の道にかなひなば
祈らずとても神や守らん

諸氏ハ常に自分ノ良心に尋テミヨ

一、自分ハ真面目ニヤツテイルカ

一、自分ノ行ニカゲヒナタハナイカ

一、人ヲダマシタリウソヲツイタリシテハイナイカ

一、自分ノ心ニモナイ事ヲ言ツテハイナイカ

十二月十八日　日曜日　晴天

「ソウスルト、誠心デヤツテ居ルカドウカガ直ワカル、諸子ガ入営間修養スルノモツマリハ誠心ダ、勅諭ニ明ニ示サレテイル何事モ誠心デヤレ」

本日ハ坂田上等兵殿ニツレラレ酒保ニ行ク

十二月十九日　月曜日　晴天

学科　教官吉田中尉殿　勅諭五ヶ条ノ中、礼儀

服従

軍隊ガ成立シテ行クニハ立派ナ軍紀ガ必要デアル

軍紀＝誠心ヲ以テ服従スル

陸軍懲罰令　逃亡シテ二、三日ニ帰ツタモノ

陸軍刑法　風紀軍紀ヲ乱シタ時、逃亡、盗、服従シナイ者

術科　舎裏ニテ基本体操、各個徒手、練兵場ニテ基本体操、速足行進、舎裏ニテ射撃予演習（正照準ノ着ケ方）

術科　舎前ニテ射撃姿勢ノ中、立射ノ姿勢、速歩行進、不動ノ姿勢

学科　銃及銃剣ノ手入法（石黒上等兵殿）

銃剣ノ手入法　精密手入（工場ニテ分解シテ行ウ）

普通手入一週間ニ一回、一日一回、使用後

銃ノ手入法　使用後、射撃後、一日一回＝遊底ヲ離脱

セズ行フ、一週間一回

方法用具　一、薬室掃除器　二、仝上掃除棒

三、円筒掃除棒＝白片ヲ附ケル

四、保針頭　五、洗矢

洗矢ハ右ニ廻シナガラ行フ、光線ハ三廻リ半ヨリナル

前　タシ牛駱＝油ヲヌル　竪牛駱、後、帯皮

十二月二十日　火曜日　晴天

術科　舎前ニテ基本体操、各個徒手、不動ノ姿勢、速歩行進

午後　練兵場方面ノ難路ノ如キ所ヲ駈足、医務室前ニテ速歩行進ヲ習フ、基本体操、医務室ニテ種痘ニ付キ調検査アリ

ニテ、三八式歩兵銃ヲ拝受ス　銃番号　一七九六〇〇

銃ヲ使用スルニハ銃ニ信頼シ大切ニ取扱、大ニ

銃ノ掃除ヲ行フ、本日ノ教練ニハ銃剣ヲ着ス

会報　大正十一年一月四日ハ、勅諭下賜四拾年ニ相当スルノデ、其ノ日ハ練兵場ニ於テ、盛大ニ大動会［運動会］ヲ開催スルニ付、各種競技其他ニ付キ御話シアリ（加藤軍曹殿ヨリ）

十二月二十一日　水曜日　晴天

学科　吉田中尉殿ヨリ連隊歴史ニ付訓示アリ

名誉アル歩兵第十八連隊

創設月日　明治十七年七月

軍紀拝受　明治十七年八月十五日

名古屋三の丸ニテ重野少将閣下ヨリ下ル

初ノ連隊長　福原中佐（豊公）殿ガウク

明治天皇御製

ますらをに旗をさすけて思ふかな
我日本の名を輝やかすべく

連隊軍旗ノ出征

日清戦争　鬼大佐ト呼バレタ佐藤連隊長ノ指揮の下ニ

（平壌・牛荘等ニテ大ニ名ヲ轟ス）
日露戦争　石原連隊長ノ下ニ、南山・得利寺・遼陽・沙河・国光代［黒溝台］・奉天ノ戦
軍旗ハ竿ト房ノミナリ
感状ヲ戴イタハ　第十一大隊［中隊］ト第十二中隊デアル
特命検閲ヲ五回受ケ、大演習ニ五回参加ス
先輩ニ対スル責任　恐怯柔懦ノ行為ノナキヨウ益々威武ヲ宣シナケレバナラヌ、我等ハ他ノ連隊ニ比シ、名誉アル連隊ニ籍ヲ於テ居ルノデアルカラ、益々忠勇ナル先輩ノ後ヲツギ、益々連隊名ヲ発揚セン［ナか］ケレバナラヌ

術科　練兵場ニテ基本体操、速歩行進、各個駈足、行進、徒歩競争
午後　舎裏ニテ基本体操、駈足行進、速歩行進、不動姿勢、右左向ケ、廻レ右、射撃予行演習（正照準ノ着ケ方）ヲ行フ

十二月二十二日　木曜日　晴天

術科　舎前ニテ基本体操、各個執銃、不動ノ姿勢、擔銃、立銃ヲ行フ、練兵場ノ障害物等ヲ超ヘ、□駈足ニテ走ル、練兵場ニテ連隊区司令官陸軍少将高橋閣下ノ検閲ヲ受ケ、尊顔ヲ拝スルノ光栄ヲ得タ、速歩、駈足行軍ヲ習フ、各個執銃訓練

十二月二十三日　金曜日　晴天

術科　駈足ニテ練兵場ノ周囲、障害物等ヲ攀シ登ボリ、飛降等シテ心体ヲ練リ、酒保前ニテ器械体操、高飛等種々習ヒ、擔銃、立銃、不動ノ姿勢及基本体操ヲ教ヘラル、銃ヲ持タナイ時ニハ叉銃ヲナス、今日ハ大掃除ヲ行フノデ寝台ヲ舎裏ニ出シ干シテ置ク、医務室前ニテ柴一等軍医殿ヨリ衛生講和アリ、後掃除ヲ行ヒ午後六時ヨリ教官殿及ビ上等兵殿ニ引率サレ、有楽館ニ活動写真ヲ見ニ行キタリ（元寇国難）、午後十時帰営ス

十二月二十四日　土曜日　晴天

術科　練兵場ノ周囲ヲ駈足ニテ身心ヲ練リ、舎前ニテ基本体操及ビ駈足行進、速歩行進ヲ習フ、終ニ襲撃ノ遊戯ヲ行ツタ
午後　医務室ニテ接種ヲ受ク、其後ハ寝台ニツキ休ム
シバラクシテ面会人ガ着タトノ報アリ、面会所ニ行キタレバ肥田良穂殿ガ居ラレ、故郷ヨリノ送リ品ヲ持ツテ来テ下サツタノデアツタ

十二月二十五日　日曜日　晴天

食事ヲ終リ洗濯ヲ行ヒ、入営後ノ所感ヲ書ク

十二月二十六日　月曜日　晴天

術科　舎裏整列　執銃行進ニテ練兵場ニ行キ、上着ヲ脱ギ基本体操ヲ行ヒ、後立銃、擔銃ヲ教ヘラレ、速歩行進ヲ行ヒ、徒歩競争ヲ行ヒ、優勝者十五名ハ入選ス
午後　舎裏整列、執銃、擔銃、立銃、立射ノ姿勢構ヘ、射撃正照準ノ着方、舎前ニテ基本体操、立射ノ構ヘ、立銃、擔ヘ銃、速歩行進中ノ右左向ヲ教ヘラル
不寝番通知有リ　五番　一班　近藤福三郎殿ト
服務（午前壱時ヨリ二時迄）

十二月二十七日　火曜日　晴天

術科　舎裏整列（午前八時）執銃ニテ練兵場ニ行キ駈足行進、徒歩競争、基本体操ヲ習ヒ、執銃、不動姿勢、擔銃、立銃、立射ノ構ヘ、据銃
午後　大掃除　射撃の歌　引金は心で引くな手で引くな　寒夜に霜の落つ如く
入営最後の所感
［空　白］

十二月二十八日　水曜日　晴天

術科　舎裏整列、駈足ニテ兵営内ヲ走ル、速歩行進、基本体操、駈足行進（二装服ヲ着ル）

告別式

営門前ニテ我派遣隊歩兵第十八連隊戦死者ノ英霊ヲ迎フ、柩ハサビシキ喇叭ノ音ト共ニ、粛々トシテ兄弟・親族・上官・兵卒等ニ送ラレ、営庭ニ於テ告別式ヲ開カル、親族・各兵ノ将校・下士・留守隊兵整列シ、僧徒等念仏、止［士か］官、親族等参拝アリ、実ニ天晴国家ノ為メ戦死シタル勇士ノ告別式デアツタ、思ヘバ彼等ハ連隊中ニテモ潔［傑カ］出セル人物デアリ、又名誉ヲ博セルノデアル、今ハ地下ニ於テ喜ビ、又英霊ハ長ク国家ヲ保護シ、且歩兵第十八連隊ノ兵営ヲ保護シ、光輝ヲ益々発揚スル礎ヲツクルデアラフ

午後　室内掃除ス　留守隊長殿ノ巡覧アリ

質問　留守隊ニ居ルニ何ヲ思ツテ居ルカ

答　火災、盗難、衛生、共同一致スル事

十二月二十九日　木曜日　曇天、早朝雨

班長殿ヨリ石廊下ニテ、第十二中隊長権田大尉殿ヨリノ通報ヲ聞セラレタ、我々ハ来春中隊長殿ノ尊顔ヲ拝スルノデアルガ、ソレ迄ニ大ニ軍務ニ精励、熟達シテ、国家ノ為メ役ニ立ツ身トナリ、光栄名誉アル軍旗ノ下ニ行カネバナラナイ

行軍

午前八時半ヨリ豊川稲荷迄行軍ス、途中一回休

午前十時半着ス、十二時迄諸所見物、十二時豊川出発

午後二時半帰営ス

十二月卅日　金曜日　曇天、雪模様

八時半ヨリ駈足、基本体操、速歩行進、予防接種

十二月三十一日　土曜日　晴天

外出

坂田上等兵殿ニ引率サレ豊橋市内見物

陸軍戦病死者ノ墓ニ参拝ス、夕午後五時半ヨリ第六区隊全部、第二班ニ於テ無礼講アリテ、歌謡、詩吟等アリテ盛大ヲ呈ス、不寝番ニ服務ス（午後九時ヨリ十時）

大正拾壱年　壱月元旦　日曜日　曇早朝雨

午前三時四拾分起床、入浴、新年雑煮朝食をすまし、八時一同舎裏整列各自皇居参遙拝、故郷ニ向ヒ祝新年ノ礼拝、天下泰平、万民安寧を百万神に祈リ年頭祝ノ挨拶を交す

連隊下士兵卒舎前整列、留守隊長殿へ各区隊毎に新年を祝するの詞を古参伍長勤務上等兵殿総代にて述べられ、一同敬礼す、隊門前にて区隊長殿より新年の祝詞所感、門松に付き、我等新兵の覚悟すべき重大問題の件に付、只徒らに粛々として歳月を送るべきの時節でない事を訓示されたり、四方拝祝日なので、各区隊内兵卒達は旧年の事業を回顧して、尚一層国家の為め尽力しようと誠心をこめたる精神を面に顕し、勇み立ちたる風勢で実に日本魂のある帝国軍人の元気を満ち〳〵とさせて居る

壱月弐日　月曜日　晴天

元始祭

午前八時整列　練兵場ニ於テ基本体操、軍歌、速歩行進、行進間ノ挙手敬礼、部隊敬礼、銃ノ手入ス、酒保ニ行キ速歩行進ヲ習フ、午後六時ヨリ第二班ニ於テ無礼講アリ、昨日ヨリ休ミニテアツタ為メ、演習無ク、只食事ヲ待チ居リタリ

壱月参日　火曜日　晴天

在郷軍人、青年代表者慰問来営ノ通知アリ（山吉田村在郷）、僕ハ大ニ歓喜胸ニ接シ暗夜ニ灯火ヲ見シ心地シ、帯剣二装服ニテ舎前ニ出テ其ノ来ルヲ待チ、湯茶ヲ運ビ（酒保）テカシヲ□セシム、田中正殿、豊田峰次殿、河田義雄殿、鈴木重好殿、馬場富太殿、外三名ノ諸兄遠路ヲモイトハズ来隊、喜々万面ニ堪ヘ、我等同窓生八名ノ為種々頭ノ凝リヲ打解ケ、故郷ヨリノ新シキ話シ、吾々ノ状態等ニ付キ言葉ヲ交シ合ヒ、営内引率舎前ニテ喜友ト別ル（此ノ接待主係ハ鈴木上等兵殿、丸山上等兵殿、手塚一等卒デアツタ）、実ニ彼等慰問者ニハ尽

キヌ感謝ノ熱情ト、先年迄交際セシ親シキ村人ト少時ノ間別レ数時間ニシテ別ルヽハ、入営間際ヨリ以上ノ気脈ヲ打ツタ
夕食後　酒保前ニ於テ基本体操、速歩行進ヲ教ヘラル
本日ハ明日ノ勅諭下賜四拾年ニ相当スルノテ祝賀運動会ノ準備、四班ハ舎前ノ桜ニ花ヲ付ケ花咲爺ヲ造ル

壱月四日　水曜日　早朝雪　曇天

勅諭下賜四十年記念大運動会ヲ営庭ニ開催サル、実ニ此ノ日ハ待チ遠シカツタ、我六区隊舎前ニハ第五班ガ砲台ヲ製ラレ、ソレニ兵卒二人並ビ敵状ヲ偵察シテ居ル、舎裏ニハ大アーチニ信義等各区隊毎ニ門前ヲ飾リ勅諭ノ五ヶ条等ヲ切リ飾ザラレ、平素ノ厳格ナル軍紀ノ下ニ軍務ニ勉励セシ兵士等モ此日ハ各自ノ花ヲ咲セント昨日ニ変ル今日ノ有様デアル、酒保前ニ一同整列、留守隊長殿ヨリ記念日ノ挨拶アリテ勅諭奉読アリタリ
大運動会　午後　正午時ヨリ営庭ニ於テ開催サル、甚タ興味アリテ盛大ノ興イ　徒歩競争、二人三脚、袋カムリ、一足一人一脚、
　　変装行列、障害物競争、提灯競争
午後一時ヨリ二時迄、面会取次ニ服務ス
夕食後　銃、銃剣ノ番号ヲ問ハル　銃一七九六〇〇
　　剣八五四九八三

一月五日　木曜日　曇天

新年宴会　朝食前　舎前整列点呼アリ、酒保前ニ於テ基本体操、機械体操（各自）、牛川ノ射的場視察、金比羅神社参詣、駈足ニテ帰営ス（午前十二時）

一月六日　金曜日　曇天

術　科　舎裏整列　酒保前ニ於テ機械体操、基本体操、速歩行進、駈足行進、舎前ニ於テ執銃、
夜間演習　初歩、練兵場ニ於テ行フ、静粛行進、方位鑑定、眼耳

一月七日　土曜日　晴天

術　科　舎前整列　基本体操、駈足、行進間ノ右左向ケ、廻レ向前進メ、不動ノ姿勢、膝射ノ構ヘ方
午後　舎裏整列、練兵場（東方地）ニ於テ、命中試験射撃ヲ行ハレ、此方法ヲ見ル、駈足、基本体操、膝射、立射ノ構ヘ方、行進間ノ敬礼（停止敬礼‐直属上官ニ対スル）
学　科　班長殿　射撃ニ付キ　眼、心、指ノ一致

一月八日　日曜日　曇天

陸軍始　観兵式　八丁練兵場　吾等ハ西方地ニ整列、60連隊、18連隊、次ニ砲兵21大隊、東方地ニハ騎兵ガ並ンデ居タ、連隊区司令官高橋少将閣下ノ閲兵式ノ行ハル
分列式　最初、歩兵第18連隊、60連隊、着剣モイト厳ニ、一枚ノ板ヲ並ヘテ動ル様デアツタ、砲兵、騎兵ノ整列行進ニハ感心スルト共ニ、己ノ教練行進ノ下手ニハ、一種異様ノ感ニ打タル
所　感　朝風ニ嘶ク駒ニマタガリ指揮刀ノ下ニ一斉ニ粛々トシテ声ナク、足先並ヘテ一直線・一横隊・縦隊ニ行進シ、捧ゲ銃ノ剣光モ目映ユクアリ、形式ニ於テモ軍人精神ニ於テモ当ニ人生又ハ国家ノ花形デアツタ、吾々モ各ノ如ク動作ガ上達スル事ガ出来得ルカト益々軍務ニ勉強シナケレバナラヌ
学　科　背嚢ノ名称ヲ教ヘラル

一月九日　月曜日　曇天

術　科　舎前ニ於テ執銃教練　立射、膝射、射撃予行演習　基本体操
学　科　吉田中尉殿、武勇、攻撃精神ニ就キ

一月十日　火曜日　晴天

学　科　吉田中尉殿、銃ノ手入法
術　科　舎前ニ於テ基本体操　膝射、立射ノ姿勢　高飛、駈足ニテ豊橋市兵営周囲ヲ行進ス、装填抽出、射撃予行演習

学科　勅諭第三条、武勇　教官吉田中尉殿
術科　練兵場ニ於テ膝射、立射ノ姿勢、据銃
入営後初メテ軍隊生活ノ夢ヲ見ル
一月十一日　水曜日　晴天
術科　舎前　基本体操　執銃教練（膝射、立射、不動ノ姿勢）
学科　前哨勤務ノ概要
前哨・本隊―前哨・中隊―小哨　歩哨
小哨
術科　夜間演習　執銃、着剣脱シ剣　装填抽出
一月十二日　木曜日　晴天
営庭ニ於テ伏射ノ姿勢ヲ教ヘラル
午後　摂政ノ宮殿下ノ令旨奉読式アリ
此ノ旨趣［趣旨］左ノ如シ
余摂政トナリ今勅諭四拾年祭ヲ行フニ際シ、感ズル処深シ、汝等軍人等（陸海）ハ協力同心シテ、此ノ勅諭ヲ奉体シテ我光輝アル国体タルノ実ヲ挙ゲ、国威ヲ発揚セヨ、一月四日
一月十三日　金曜日　少雨後曇
術科　舎内ニ於テ体操、執銃教練 立射、膝射、伏射、装填抽出
術科　行軍、旅次行軍、戦備行軍
戦備行軍＝普通行軍・急行軍・強行軍
舎裏ニ於テ吉田中尉殿ヨリ攻撃的精神ニ付キ
独立自存　剛［傲］慢不遜ノ行為悪シ
一月十四日　土曜日　雪模様
起床喇叭ノ音ニ故郷ノ夢ハ破レ、パット飛起キ日朝点呼モ終ヘ、班内掃除、食事モスミ、第三装乙ノ服装、水筒、雑嚢、前後弾薬盒、帯剣ニテ銃ヲ擔ヘ舎前整列
行軍　キ行進喇叭ト共ニ教官殿班長殿ニ引率サレ営門ヲバ打出デヌ、至ル所ノ町内ハ各人静粛ニ元気旺盛ニ歩調並ヘ、豊橋ノ橋ニトカツタ、此ノ時フト見当ツタ材木ノ豊川ニ流レ居ルヲ見下セバ、望郷ノ念ヲ禁ジ得ナカツタ、下地町ヲ通リ正岡ノ片□シキ田畑ヲ横ニ見タ、班長殿ヨリ行軍、軍紀、兵語等ニ付質問セラレ又教ヘラル、途中少シ休憩、駈足ニテ豊川稲荷ニ達スル坂迄駈足行進、喇叭ニ歩調合セ出発、当時ノ寒サモ何時ニカ失セテ暖気春ヲ覚ヘタ
豊川稲荷参拝三十分休、此ノ時天我等ノ行軍ヲ旺盛ナラシメン為メカ、潔ヨキ白雪ハ本宮山上ヨリ吹キ下サシメ、一同整列行進喇叭ニ意気ヲ□シ進ミヌ、雪ハ益々降リシキリ手指ノ寒サヲ覚ヘシモ途中拾五分間ノ駈足ニヨリ先ノ寒サハ何処ヘヤラ忘却シ、間モ無ク国府ニ着キ休、約三十分実ニ此ノ時ノ飯盒ノ飯及ビ堅パンノ味ハ言フニ言ハレヌ美味ヲ感ジタ、十二時過ギ頃出発勇マシキ軍歌ヲ謡ヒツヽ知ラズ〳〵小坂井ヲ経テ豊橋ニト行シメ実ニ軍歌ハ行軍力ノ強大ナラシムル基礎デアル、雪ハ益々吹飛ビ、弾薬盒ハ雪ヲ以テシタサレ我々ノ魂タル銃モ著シク濡レテ心痛ヲ起サスノ小気ヲ以ツタ、此ノ行軍里程六里余、六時間ヲ以テ帰営ス
一月十五日　日曜日　曇天
術科　九中隊ノ空室ニ於テ、坂田上等兵殿ヨリ基本体操ヲ二時間教練サル、昨日ヨリノ降雪ハ止ミタレドモ雪解ケ甚ダシク、営内靴ハ勿論、靴下ハ泥土ニ染ミ気色悪シカリキ
午後壱時ヨリ弐時迄面会取次ニ服務ス、本日ハ面会人多ク、他兵種ノ将校等来営アリタリ
午後洗濯ヲ行ヒ、酒保ニ行キ日用品菓子ヲ求ム「雑踏ヲ極ム（酒保）」、石黒上等兵殿ヨリ射撃教範・体操教範ヲ買求シテ戴キタリ
一月十六日　月曜日　晴天

学科　教官吉田中尉殿（四十分間）　隣ノ空室（学科室）ニ於テ
感恩報謝
吾人ハ人類、生物、無生物ニ至迄、報恩ノ念ヲ持ツ事
愛国（尽忠報国）
博愛（世界隅々ノ恩恵ヲ受ケ居ル「是ニ対スル」）
（現在）忠君（君ニ対スル）、愛国（国ニ対スル）、孝行（親ニ対スル）、信義（朋友ニ対スル）
（過去）敬神、嵩仏、祖先　崇拝
往昔祖先ノ習慣ハ忘ル事ナク供行祭ヲ行フ

術科　空室ニ於テ基本体操、執銃教練、立射、膝射、伏射各
予行演習ヲ行フ、舎前ニ於テ正照準ノ附ケ方、精神状態悪シク、動気ノ調和不能ニ付キ、照準ガ早々着カザリキ

一月十七日　火曜日　晴天

術科　舎前ニ於テ徒手、銃剣術、前進後退、構ヘ
直属上官第二中隊長角田大尉殿ノ尊顔ヲ拝スルヲ得
挨拶訓示アリ、教練ハ常ニ戦場ニアル時ノツモリデ行フベシ

観劇　東雲座　昨年秋季大演習活動写真、大橋幸太郎新派劇
午後壱時ヨリ四時迄

一月十八日　水曜日　雪

学科　教官吉田中尉殿
信義＝常ノ道　信トハ己言履行
用
義トハ己尽分　分（本分、職分
務　大義名分　順、逆、理、非
小節　例　ノ信義ヲ立テントシ
大綱　ノ順逆ヲアヤマル　西郷隆盛

術科　空室ニ於テ基本体操、銃剣術、前進、行進、突進、執銃教練、折敷、装填、抽出

学科　歩兵操典、射撃、体操
非常呼集　三装乙ノ服装ニ弾薬盒、背嚢ヲ着シ、陸軍墓地乃木大将及楠公ノ祭祠地参拝、駈足、道足ニテ軍歌ヲ歌ヒ帰営、終末運動ヲ行ヒ終リ

一月十九日　木曜日　曇天

術科　室内ニ於テ応用体操、各個立、膝、伏射姿勢予行演習
膝射発進停止
散兵ノ練習、練兵場ニ於テ行フ、行進、立射装填突進抽出ノ要領、歩哨ノ任務　敵兵ノ発見、報告ノシカ方要領
伏射姿勢ノ良好ナル点、「射撃効力ヲ発揚シ得ル事

学科　石黒上等兵殿ヨリ教育サル、班内ニ於テ行フ、歩哨一般、守則、特別守則、任務、操典、射撃教範ニ付キ
班長殿ヨリ整頓ノ仕方

一月二十日　金曜日　雪模様ナリ

術科　空室内ニ於テ応用体操、執銃教練、不動ノ姿勢、行進間ノ着剣、脱剣、同装填、銃剣術ノ演習、木銃携行、構銃、立銃、突進方法（直突）
衛生講話　酒保ニ於テ聴聞　凍傷、感冒ニ付キ予防法講話アリタレ共、講堂満員ニ付又話ノ中途ヨリ聴キタル為、明瞭ニ聞ク能ハザリシハ残念ナリキ
身体検査アリ（医務室ニ於テ行ハル）、班内ニ於テ軍歌ヲ習フ又据銃演練、棒給壱円弐拾銭受ク

一月二十一日　土曜日　晴天

術科　室内ニ於テ応用体操、各個執銃、不動ノ姿勢、立射、膝射、伏射各個予行演習、各射方転回演習
午前壱時ヨリ学科　室内ニ於テ　教官吉田中尉殿
今上陛下ヨリ賜リタル勅諭ニ付キ
帝祚、皇統、烈世、遺烈、皇考、一世、堅訓

（2、思索ノ選ヲ慎ミ
1、奉公ノ志ヲ固クシ　実ヲ挙ゲテ）
自覚　＝　1、目的精神ヲ確メルコト（積極的）次
（サトル）2、自ヲサトル、（消極的）最初
理由ヲ知ツテ行フ、無自覚デハイカナイ
悪キ風習ニ施動サレテハイケナイ

［枠外］「思索ノ選ヲ慎ムト云フ事ニ付キ、自覚トイウ事ヲ教育サル」

一月二十二日　日曜日　晴天、雪模様アリ

術科　徒手、練兵場ニ於テ三十分間　教　坂田上等兵殿
応用体操、駈足行進、軍歌ヲ習フ、
午前九時ヨリ　振武殿ニ於テ講話アリ、我慢

一月二十三日　月曜日　晴天

学科　質素　1、文弱　（士風／兵気）　教官吉田中尉殿
2、軽薄
3、驕慢華美

術科　九時半ヨリ舎裏整列（背嚢、弾薬盒、銃、銃剣）、駈足ニテ
練兵場ニ到リ応用体操、徒歩行進、駈足、不動姿勢、
執銃、立射、膝射、伏射、射撃予行演習、帰営ノ途次
行進間ノ折敷、伏セヲ行フ
午後　練兵場ニ於テ伏射予行演習及膝射、不動姿勢、散兵教
練、地物利用、散兵ハ敵及指揮官、隣兵ニ注意スルコト、
散兵行進間ノ諸動作（膝射）、執銃不動ノ姿勢、速歩
行進、着剣、脱剣（行進中ノ）

一月二十四日　火曜日　曇天

演習見学　石田高地ニ於テ、歩兵第十八連隊留守隊二・三年兵演習ヲ行
フ、我等初年兵ハ最高地其他、戦闘ノ前後ヲ走リコレヲ見ル、
コレニヨリ地物利用ノ有益ナルヲ自覚ス、後ノ諸動作ハ敏捷
及攻撃精神ヲ欠キタルモノアリタリ

術科　練兵場ニ帰リ執銃、不動ノ姿勢、左右向ケノ動作、斜行進、
立射、膝射、帰営ノ途次、速歩行進、折敷、伏セヲ行
フ
午後　練兵場　伏射、膝射、立射、予行演習
散兵教練＝立射、膝射、行進、整頓ノ方法動作、伏射
予行演習

学科　点呼前参拾分間、陣中要務令ニ付、石黒上等兵殿
1、斥候ノ行進方法　2、下士哨ノ任務
3、巡察任務　4、小哨

一月二十五日　水曜日　晴天

術科　武装　舎裏整列　解装、練兵場方面ヲ駈足、障害物ヲ越ヘ、
又徒歩競争ヲ行フテ早着順序ニテ駈足ニテ帰庭（舎裏）、
基本体操ヲ行フ、実ニ愉快デアツタ
命課布達式　作用服ニ武装、舎前整列シ式アリタリ　留守隊長殿
衛生、北満ノ気候ニ関スル意気ヲ示メサル、分列式アリ
（古参留守隊）、練兵場駈足ニテ、執銃不動姿勢、留守
隊長殿及ビ区隊長殿ヨリノ検閲、批評アリ、立射、膝射
午後　練兵場ニ於テ散兵、行進、伏射方法、立射、膝射、伏射予行
演習、狭窄射撃、立射委、射撃　距離十五米、遊戯ヲ行フ

一月二十六日　木曜日　晴天

術科　午前六時非常呼集アリ　舎前整列　練兵場駈足ヲ約弐拾分間
行ヒ帰営、点呼終り食事終リ八時半ヨリ練兵場ニ於テ駈足、
速歩行進、立射、伏射、膝射、不動ノ姿勢、散兵教練
午後　膝射、立射姿勢及不動姿勢、整頓、行進、散兵散開行
進

一月二十七日　金曜日　晴天

行軍　午前七時半　舎前整列吉田尉［中尉］殿ニ引率サレテ、高師
原方面ヲ演習ヲ行ヒツヽ小松原ニ行ク（散兵、散開行進、突

撃、射撃）伝絡兵伝令、小松原山ニ休　馬頭観音ニ心ニテ参拝ス、ソレヨリ山間ヲ通過、白須賀学校ニ於テ昼食ス、一時間休（〇時四十分出発、二川ニ向フ途中富士山ヲ望ム、二川ニ着休憩後、軍歌ヲ元気ヨク謡ウテ帰営ス、実ニ此間ノ里程ハ知ラズ〳〵ノ間デ、練兵場入口ニ着シタル時ハ何処ノ連隊ガ教練ヲシテ居ルノカト当惑シタガ、東門ニ歩兵第十八連隊ノ印ガアツタノデ漸ク気付キ、行軍ノ楽ミハ一段落ヲ告ゲタ

術科　**一月二十八日　土曜日　晴天**

練兵場ニ於テ執銃、不動姿勢、立射、膝射、姿勢ヲ角田大尉殿検閲サル、伏射、据銃予行演習、散兵教練、散兵停止、伏射予行演習、折敷、執行

兵器検査　午後四時ヨリ執行サルニ付、十二時ヨリ兵器掃除ス

不行届欠点　前盒、銃、□中

一月二十九日　日曜日　晴天

点呼前舎前整列　吉田中尉殿ヨリ外出先ノ注意事項ニ付キ講話アリ、午前十時室内掃除ス

昼食　班長殿ヨリ面会人ヲ週番士官・下士官・上等兵殿ノ許可ヲ得ズシテ営内ヲ引率シテハナラヌトノ事、又便所ニ行クベカラザル事、

午後八時、班長殿ヨリ共同一致ノ欠足ニ付御訓示アリ

一月三十日　月曜日　晴天

本日ハ凍傷患者ハ治療スル様ニトノ命ニヨリ、不承不承ニモ残リ居リ（班内）、八時半診断患者整列、週番上等兵殿（石黒上等兵殿）ニ引率サレ医務室ニ行キテ、治療巡番［順番］来ルヲ待ツ、実ニ医務室ニ只然トシテ居ルノハ、飽キ〳〵シテ堪ラナカツタ、凍傷患者ハ最後ニ診断治療ヲ受ケテ帰班、午前十一時出発、練兵場ニ駈足着、各区隊ヲ留守隊長殿ノ検閲スルヲ見、コレニ礼シ我区隊ノ教練場ニ至ル、吾々一人後ヨリ教練最中ニ行クノハ、又診断治療ヲ受ケルノハ絶体絶命コリ〳〵シタ

術科　執銃、不動ノ姿勢、右左向ケ、速歩、駈足行進、立射、膝射姿勢、各個予行演習挙行

午後三装乙服ニテ練兵場（着剣執銃）ニ至り基本体操ヲ行フ

留守隊長吉原中佐殿ノ査閲

執銃不動姿勢、速歩行進、駈足行進、射撃姿勢　立・膝・伏射、各個予行演習、帰営　九中隊兵舎ニ於テ査閲ノ事ニ付キ、教官殿ヨリ所感ヲノベラル

一月三十一日　火曜日　晴天

学科　学科室ニ於テ教官殿ヨリ勅諭ノ本文ニ付教育サル、応用体操、銃剣術、（直突）

術科　歩哨、追撃、敵兵発見、斥候ノ動作ニ付キ見学、軍歌ヲ謡ヒ帰営ス

会報　加藤軍曹殿ヨリ石廊下ニ於テ、外出、乗車証、面会ノ注意

二月一日　水曜日　曇天

留守司令官閣下ノ査閲

三装乙服装、銃器弾薬盒着、練兵場ニ於テ受ク、不動姿勢、立射、射撃予行演習、膝射

術科　応用体操

午後　狭窄射撃、立射　発射弾五発　総点七点

立射、伏射、膝射、各個予行演習ヲ行

伏射ノ臀ノ皮ヲ後ニ引キヨセル様ニシ銃ヲ持ツコト

夜間演習、同査、透視

二月二日　木曜日　曇天

術科　第二中隊長角田一郎殿ノ訓示アリ

練兵場ニ於テ散兵行進、追撃、銃ノ擔ヘ銃、立射、捧ケ銃、不動ノ姿勢、整頓ノ仕方、方向変　向ヲ　散兵教練

二月三日　金曜日　雨天

術科　舎内ニ於テ応用体操、執銃教練、不動姿勢、擔銃、立射、伏射、膝射、行進間ノ敬礼、停止敬礼

午後　銃剣術ノ基本、直突

学科　（包帯）三角巾一枚、昇汞ガーゼ（四枚）包紙二枚及ビ被包布一枚ヨリ成ル、一度開キタル昇汞ガーゼハ一時ニ使ヒ尽スヲ要ス、三角巾ノ使用繃帯法、止血法及ビ人口呼吸法ニ付キ

二月四日　土曜日　晴天

術科　舎内演習　基本体操、執銃訓練、射撃予行演習、正照準ノ着ケ方、一斉射撃、各固射撃、狭窄射撃、膝射

二月五日　日曜日　晴天

下士室当番ニ服務ス、班内一同撮影ス

二月六日　月曜日　晴天

学科　武士道　大和魂　忠孝、武、礼、信質、義礼智信、五倫

典型（乃木大将）　文武両道

しらくものよそに求むな世の人の

誠の道ぞ敷島の道

各個散兵、執銃、教練

二月七日　火曜日　曇

高師原ニテ野外演習ヲ行ハル（警戒行軍）、散兵教練、食事休憩、高師原付近ノ地名ヲ教ヘラル、歩哨ノ練習ヲ行ヒ、東海道ヲ軍歌ヲ謡ヒツヽ帰営ス

二月八日　水曜日　雨天

班内演習　捧ゲ銃（右左、正面）

午後　銃剣術ノ練習　前進、後退、突進

二月九日　木曜日　晴天

学科　協同一致

←←

力心

主旨（本旨）＝各々自己ノ仕務（責任）ノ遂行ニ努力ス

午後　散兵教練、銃剣術、直突練習、狭窄射撃（伏射）

二月十日　金曜日　晴天

術科　練兵場ニ於テ膝射予行演習

午後　照準演習、空包射撃ヲ行ツテ後、伏射予行演習及散兵教練ヲ行フ、区隊長ヨリ紀元節ニ付キ訓示アリ

二月十一日　土曜日　晴天

紀元節　聖上陛下御真影遙拝ス

二月十二日　日曜日　晴天

照準演習ヲ行フ

二月十三日　月曜日　晴天

狭窄射撃、斜行進、整頓、直行進、散兵教練

二月十四日　火曜日　晴天

牛川迄行進、後練兵場（八丁）帰リ天幕ノ張リ方

基本射撃第一習会　立射委託　発射弾三発　八点

二月十五日　水曜日　曇天

野外演習　石田ヲ通過三三高地ニ向ツテ行進、突撃、此ノ地於テ地形地物利用、散兵教練、十一時三十分頃ヨリ雨降、三分五分ノ駈足行進ニテ帰営

午後二時　室内演習、整頓、捧銃、照準演習、四時演習終リ

二月十六日　木曜日　雨天

九中隊空室ニ於テ基本体操及銃剣術（直突）練習、途中、外山学校ヨリ我々ノ銃剣術ヲ見ニ来ル

二月十七日　金曜日　晴天

班内演習　基本体操及伏射予行演習、狭窄射撃

二月十八日　土曜日　晴天

基本射撃第二習会、牛川射場ニ於テ行フ

伏射　発射弾　五発　得点十八点（照準不良）、射撃□順序
第一着　弾痕ヲ示サレナカツタ、監的手ニ服務

二月十九日　日曜日　晴天

二月二十日　月曜日　晴天

軍装手入及準備ヲナス（明日行軍）、軍装ニテ舎前整列、班長殿及上等兵殿ヨリ検査アリ、区隊長殿ヨリ行軍ニ付キ衛生及ビ宿舎ニ対スル注意アリ

二月二十一日　火曜日　晴天

行軍　武装ニテ午前七時半舎前整列、留守ニ中隊勇シキ進軍喇叭ノ音ト共ニ第一日行軍ハ開始サレタ、豊橋ノ御橋通過下地町ヲ少シ隔ル松並木ニ休憩ス、ココニ各人靴ノ手入ヲナス（休憩約十分）

蒲郡ノ海岸ヲ通過スル時ハ実ニヨキ心地ス、店ニ梅木ノ植木金一千円ノ正札ノ着ケタモノガアツタ、生レテ依来始メテ製塩場ノ塩田ヲ見ル、宝飯郡形原村小学校ニ着シ基本体操ヲ行ヒ休憩、銃ノ手入ヲナス、此処ニ於テ各々宿舎割ヲナシ、区隊長殿ヨリ御話アリ、吾々ハ第五班ノ宿舎地ニ編セラレ土田君ト二人ニテ形原村大字戸甫井、牧原甚三郎方ニ宿泊ス種々馳走サレ食スルニ□□ス

二月二十二日　水曜日　晴天

行軍第二日　午前六時起床、八時五十分牧原忠兵衛方附近集合ス、各戦友等ハ交ニ笑ヲ含ミ出発ス、初メテ山地ヲ超ヘタ、初春トハ雖暑サ一夕［方］ナラヌ、此ノ部落ヲ出ズルト野外演習開始、吾々ハ連絡兵トナリ行進シ停止シツヽ、敵前ニ近ヅキ第一中隊ニ加リ散開シ行進停止シ戦闘射撃ヲ開始ス（空包六発射ス）、突撃ノ号令ニテ沼地ノ如キ所ヲ飛ビ越ヘ、地所悪キニヨリ、スベル者モアツタガ皆元気旺盛ナリ、カクシテ接戦トナルヤ演習休止トナリ道路上ニ整列ス、区隊長殿ヨリ演習批評アリ（散開ノ動作悪シ）、各兵横須賀ニ向イテ行進ス、午後四時頃宿舎着（小牧、鈴木金蔵方自転車製造業、中々家屋モ大規模ノ造り煉瓦造リニテ職人モ多数居タリ）、古参一等卒殿ト三名ニテ宿泊ス

二月二十三日　木曜日　曇天、早朝雨

午前九時小学校集合出発ス、本日ハ足ノ痛キモノアリ、三州行進軍歌ヲヤリ、所々ニテ休憩シツヽ、六ッ美村ニ向ツテ前進ス、午前三時半頃六ッ美村ニ着シ、神社ニ十五分休憩シ歩兵中隊ノ小哨、歩哨動作ヲ約一時間練習ス、六ッ美村宿営、第三班班長殿、戦友十一名ニテ宿泊ス

二月二十四日　金曜日　晴天

午前二時起床四時神社集合出発ス、夜行軍道尚暗キヲ行進ス、実ニ夜行軍ハ知ラズ〳〵中ニ東海道ニ入り、昔日ノ旅人・武士モ此ノ地ヲ通過セシカト□□感ニ打タレツヽ山中村ヲ通過ス、一時間又二時間ニ十分又十五分ノ休憩ハ実ニ楽ミナリシ、出発間近ニハ足ヲスリ又高低ク歩行スルヲ見ル、小坂井ニテ昼食ス四十分休憩ス、最早営戍地［衛戍地］ニ程無キヲ思ヒ歓喜ニ堪ヘヌ者アリ、午後参時帰営ス

区隊長殿ヨリ行軍間ノ動作ニ付批評アリ（落伍者、六ッ美ニテ一名汽車ニテ帰営ス）、三装乙ノ軍服襦袢モ汗ニテ色ヲ変ヘ、体操（約十分）、午後七時半就寝ス

二月廿五日　土曜日　晴天

武器被服手入、武器検査アリ

二月廿六日　日曜日　曇天

休

二月廿七日　月曜日　雨天

班内演習　応用体操（午前）、銃剣術、直突、前進、後退、演習ス

二月二十八日　火曜日　曇天

昨日ヨリ寒サ加ル、練兵場ニ於テ執銃、不動姿勢、立射、膝射、伏射、予行演習執行ス、直行進、斜行進、動作、散兵教練、

午後　伏射、膝射、立射予行演習執行、補射撃（基本射撃）
ヲ行フ、散兵教練

参月壱日　水曜日　曇天

午前　練兵場ニ於テ基本体操

査閲　留守隊長殿　各個散兵（押弾□ヲ失フ）

牛川ニ向ツテ前進、昼食、基本射撃第三習会　伏射　発射弾
五発　総点参拾点　監的手ニ服務

参月二日　木曜日　晴天

野外演習　高師原ニ於テ散兵教練、歩哨

参月参日　金曜日　曇天

練兵場ニ於テ応用体操、速歩行進、徒歩競争（一回）、
執銃、不動ノ姿勢（右左向ケ）、膝射、伏射、予行演習、練
兵場ノ南方ヲ飛行機飛ブ、宙返、横転、逆転ヲ行フ、吾々ハ
此ノ飛行機ヲ二千四百ノ照尺ヲ用ヒ、予行演習ヲ行フ

午後　散兵散開行進、縦隊行進ヨリ其場散開、方向変遷、地
物利用、固有射撃正照準ノ着方、区隊長殿ヨリ射撃ニ
付、銃ノ握方、引金ノ要領（時期、［　］ヲ付ケ引ク）

参月四日　土曜日　雨、曇

高師原ニ於テ第三師団攻防演習ヲ行ハル、見学ス

参月五日　日曜日　晴天

午前七時整列、牛川射撃場ニ於テ基本射撃第四習会
膝射（二〇〇米）発射弾五発　総点三十二点、午後二時帰営

参月六日　月曜日　曇天

基本体操、行進間敬礼（執銃）（近距離）
特別射撃　伏三発20点、膝二発10点、総点30点
中隊縦隊、整頓、直行進

三月七日　火曜日　雨天

班内演習　基本体操、擔銃、捧ゲ銃、射撃予行演習、一斉射撃、各個射
撃、密集射撃
北満派遣、注意事項、立射、膝射、伏射、予行演習

学科

三月八日　水曜日　晴天

午前五時起床、監的手ニ服務（射撃準備、五時出発
八時半、膝射散兵壕ヲ作ル
午後ヨリ五、四、六班特別射撃開始（膝射二、伏三発）22点
五時半休止、午後六時半帰営ス

三月九日　木曜日　晴天

近距離射場ニ於テ特別射撃（伏射二、膝二）25点
応用体操、行進間ノ折敷、廻向前、伏セ

午後　練兵場ニ於テ執銃、不動ノ姿勢、右向左向、各個速歩
行進、二伍、三伍、四伍部隊行進、斜行進、午後三時帰営

夜間演習　東田付近ニ於テ歩哨、斥候ノ諸動作、散兵突撃、
午後四時帰営

三月十日　金曜日　曇後雨

陸軍記念日　牟呂吉田村ニ於テ第四区隊・六区隊、各六十名宛対抗演習、
（空包八発）小学校生徒参加、午前十二時小学校ニ於テ休憩、
汁粉ノ饗応ヲ受ク、午後一時帰営ス、祝馳走アリ

三月十一日　土曜日　晴天

近距離射場ニ於テ特別射撃　伏三、膝二　34点
応用体操、散兵教練、手投弾、投方法、伏・膝射予行演習

三月十二日　日曜日　晴天

非常呼集　午前五時喇叭ノ音ニ夢ハ破ラレ、軍装ニテ舎前整列、我六区
隊ハ第十中隊ニ連隊全員旅次行軍ヲ以テ観音山ニ向ツテ前
進、五分休憩（観音山前）

戦闘開始　梅田川橋梁ニアル敵軍ヲ掌握スル目的ヲ以テ前進ス、途次前
進シ停止シ射撃シ、高師原圍松附近ニ於テ白兵戦トナリ演習
休止ス、圍松ニ於テ留守隊長殿ヨり渡満兵ニ対スル責務及ビ

演習ニ付キ御話アリ（午前七時五十分）、四十分ニテ帰営ス、
途中各小隊ニ、二・三名ノ落伍者ヲ見ル、実ニ数丁ノ距離ノ
強行軍ニテ弱ル様ナ事デハ、戦時ニ於テハ戦友ノ意志ヲ薄弱
シ迷惑ヲスルノデアルカラモット〳〵我等ハ体力行軍力ヲ教
練セナケレバナラヌ、又々行軍軍紀ヲ各人守ル必要アリト自
覚ス、応用体操、終末運動ヲ行フ、舎前ニ於テ区隊長殿ヨリ
演習及四十分間ノ行軍ニ対スル兵卒ノ意志ニ付キ注意訓示ア
リ、流汗甚ダシ
九時整列、練兵場狭窄射撃場ニ於テ狭窄射撃執行サル
　伏射五発　左下（□）伏・膝射予行演習
午後　休　面会取次ニ服ス
面会ニ来ル親戚、同朋、彼等ノ心神ヲ又其ノ兵卒ヲ推計ルレ
バ、其ノ感動ハ吾々如キ入営以来一回モ面会人無キモノハ又
故郷ノ望感スルニ余リ在り、八名郡青年大会村青年ノ武技ヲ
シノビ、彼等ノ精神及近く渡満ヲ心痛サル両親ノ農業ニ服務
サレツヽ老親ノ薄弱ニ落涙サルヽヲ忍バルヽ
　三月十三日　月曜日　曇、午後雨
近距離射場ニ於テ応用体操、膝射、伏射予行演習
午前九時牛川射場ニ出発、特別射撃　伏一、膝一　8点
午後二時半帰営ス、
　三月十四日　火曜日　曇天
留守歩兵第十八連隊　特別射撃　伏三、膝二（36点）
場所　牛川射場　伏10・7・7　膝9・3
手投弾、投的弾　4発　総点11点
五時帰営、面会来ル（父）（伊勢参拝ノ途次）
　三月十五日　水曜日　曇　午後二時・三時雨
午前十時ヨリ石川了整氏慰問、講演アリ（酒保前ニ於テ）
午前十時迄　練兵場ニ於テ応用体操（早駆アリ）

午後　近距離射場ニ於テ、基本射撃第五習会（立射）ヲ行ワ
レ監的手ニ服務ス、不動姿勢、速歩行進、駈足、擔銃、立銃
中途ニ於テ降雨ノタメ帰営、室内掃除、兵器、被服ノ手入
　三月十七日　金曜日　晴天
練兵場ニテ分隊教練、整頓、直行進
三三高地附近ニアル敵ヲ追撃、途中ヨリ斥候ヲナス、永久堡
塁ヲ通過、戦時散兵教練
　三月十六日　木曜日　曇天
牛川射場ニ於テ基本射撃　第五習会　立射　6発　17点
基本体操、戦闘射撃、応用射撃
　三月十八日　土曜日　晴天
牛川射場ニ於テ新銃ノ命中試験アリ、基本体操、整頓、行進
斜行進、速歩、駈足、行進、行進間敬礼、軍装準備、衛生
講話
　三月十九日　日曜日　晴天
午前　舎前ニ於テ軍装検査アリ
　三月二十日　月曜日　曇（雨模様アリ）
第一期検閲　第一日
（予習）午前　営庭ニ於テ速歩、駈足、行進、整頓、酒保前
ニ於テ駈足、速歩行進、整頓、速歩、分隊教練、捧ゲ銃
　三月二十一日　火曜日　曇天
高師原ニ於テ、二・三・五・六班ノ散兵教練
三時半ヨリ歩哨ノ検閲アリ　特別□□、銃ノ構方、露支兵軍
使ニ対スル（○○○――――
　三月二十二日　水曜日　晴天
午前九時半ヨリ高師原ニ向ツテ前進ス（一班、四班）
午後一時ヨリ検閲
散兵教練、防御二回、攻撃一回（留守隊長殿）

三月二十三日　木曜日　　晴天

兵器及ビ被服ノ手入（午前）、午後検査

三月二十四日　金曜日　　晴天

三装乙軍衣ノ袴、三装軍帽、靴手入　及検査

命課付達式　桑名菊治殿（大尉）

特別射撃成績優等者ニ賞状賞与アリ（二人、三十九点ノモノ）

手投弾　賞品賞与アリ（11点ヨリ）

区隊基本特別射撃（四十点以上ノ者ニ賞状ヲ授ケラル）

三装乙軍衣袴、軍帽ヲ返納ス

三月廿五日　土曜日　　晴天

午前七時半ヨリ豊川閣ニ渡満兵ノ祈祷ヲ受ケニ行ク

三時帰営、帰郷準備

三月廿六日　日曜日　　晴天

午前六時十分営門出発、停車場ニ駆ケ行ク、発車時刻ノ都合ニヨリ、午前八時五十分長篠行列車ニ乗リ、新城町十時着、徒歩ニテ親戚ニ寄リツ、午後一時半帰宅ス

三月二十七日　月曜日　　晴天

村役場ニ行キタリ、村社、墓詣リヲス、親類ニ決別ニ行キ、午後三時ヨリ携帯ノ品準備ス、所感　帰郷ハ吾々如キ者ハ軍隊ノ事等ハ一切忘レ故郷ノ感慨ニ沈ム

三月二十八日　火曜日　　晴天

帰隊ヲ忘レ居タガ不図気付キ出発支度ス、午後一時途中迄見送リヲ受ケ自転車ニテ新城町ニ着、三時五十分ノ汽車ニ乗リ五時豊橋着、約一時間市内見物、六時廿分帰営ス、本日ハ軍隊生活ヲ飽キ出シタ

三月二十九日　水曜日　　晴天

諸物品ヲ納ム、又不時当番ニ服ス、三装乙軍衣袴、靴、作業衣袴、巻脚絆

三月三十日　木曜日　　晴天

二装巻脚絆ヲ納ム

午前中、班内大掃除ヲナス、石黒上等兵殿ヨリ餞別ヲ賜ル

三月三十一日　金曜日　　雨天

午前中　武器、被服ノ手入

午　後　豊明館ニ活動写真ヲ観ル、旧劇　高浪八郎　恋ノ命

五時帰営ス、上等兵石黒京次殿ノ慰労・餞別ノタメ茶話会ヲ開カル（班内ニ於テ）晩食ヲ共ニス

四月一日　土曜日　　晴天

△以後、渡満兵として渡満す

（裏表紙）